

「分かる喜びを実感させる」算数科学習指導法の研究  
～定着・習熟・振り返りの時間を確保する学習指導過程の工夫～

宮崎県日向市立細島小学校 今田拓晃

## I 主題設定の理由

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

小学校学習指導要領解説算数編では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。その授業改善の際に留意して取り組むことの中に

エ 1回1回の授業で全ての学びが実現されるのではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること

カ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、その確実な習得を図ることを重視すること

とある。

以上のことから単元や題材を見通した授業計画を行うことで、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を効果的に進めることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究の仮説

算数科の学習において、定着・習熟・振り返りの時間の確保を十分に行えば、算数科の基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図れるであろう。

## III 研究の内容

- 1 定着の時間の活動（導入時）
- 2 習熟の時間の活動（終末時）
- 3 振り返りの時間の活動（終末時）

## IV 研究の実際

### 1 定着の時間の活動（導入時）

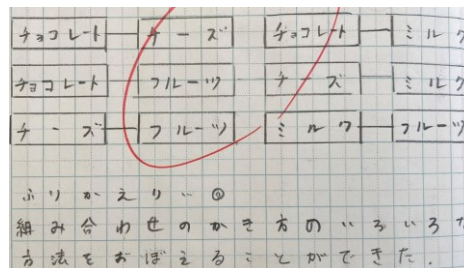
本時の授業につながる内容や単元を通して身に付けておくべき内容に取り組む時間を授業のはじめに設定した。児童は、前の学年に学習した内容を思い出すことができ、本時の内容にもスムーズに入ることができた。

### 2 習熟の時間の活動（終末時）

授業の内容を踏まえた問題を解かせる時間を習熟の時間として必ず入れることで基礎的・基本的な技能・知識を身に付けさせようとした。時間を十分に確保することで、本時の内容を本当に理解できたのか児童、教師が確かめることのできる時間となった。

### 3 振り返りの時間の活動（終末時）

授業の最後に児童自身の振り返る時間を設定した。◎、○、△の3つで自己評価を行い、この授業でどんなことが理解できたのか、どんな内容に難しさを感じたのかを記録させた。そうすることで、児童自身が理解できていない内容を把握することができた。



## V 成果と課題

### 1 成果

- 定着の時間(導入時)を確保することで、本時の問題とのつながりを児童が意識し、学習内容の理解を深めることができた。
- 習熟・振り返りの時間(終末時)を確保することで、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながり、それにより児童が本時の理解を実感でき、分かる喜びへとつながった。

### 2 課題

- 習熟の時間に至るまでの内容を精選できていない時があり、習熟問題を多く解かせることができず、児童が理解したのかを教師が十分に確認できない時があった。
- 振り返りの感想の書かせ方において参考になる児童の意見を紹介するなどの指導ができなかった。